

さまざまな経験やそのときどきの想いを糧に築きあげ、「昨日より今日、今日より明日」の人生を充実させている、
上野莉歩さんの生き方を紹介します。

味噌蔵をリノベーション 地域のサードプレイスに



cafe&HASH BA
わたしの素ベース
オーナー
うえの まりほ
上野莉歩さん

【Profile】階上町出身。大学進学を機に県外へ。学生時代にアルバイトで経験したサードプレイス・場づくりに興味を持つ。大学卒業後、東京の総合印刷会社に3年間勤務したのち、福島県に移住。地域づくり団体でイベント・広報を経験する。2023年Uターン。10月20日『cafe&HASH BAわたしの素ベース』をオープンした。

「早く町を出たい」から「いずれは戻る」に

JR階上駅から徒歩3分。「cafe & HASH BA わたしの素ベース」を昨年10月20日にオープンさせた上野さん。大学進学を機に一度地元を離れます。「前向きな気持ちで大学に行くというより早く町を出たい気持ちが強く、当時は町に魅力を感じられませんでした」と進学当時を振り返ります。そんな上野さんが、学生時代に4年間勤めたスターバックスでのアルバイトで、あることに気づいていきます。「最初接客は苦手でしたが、ベテランになるにつれて、運営やマネジメントに関わるようになってから、すごく楽しくて、裏方が好きなんだと気づきました」。また勤務先の店舗には、地域の年配の方々や決まった曜日・時間に来店する方、日常の一部のように立ち寄ってくれるお客様の姿がありました。スターバックスが掲げている「サードプレイス(第3の場所)」を知り、故郷では感じられなかったその光景から、「階上町にサードプレイスを作りたい」と思うようになります。

就職活動は地域創生を軸にし、将来的には階上町に戻る意向があることを伝えていました。「さまざまな経験を積んで吸収し、階上町に合

う要素を持ち帰りたい」という思いで、東京で3年間印刷会社に勤めることになりました。

シンボリックな建物を見つけた

希望していた地域創生とは別の部署に配属となり、そして就職1年目の冬にコロナ禍に見舞われ、仕事は一気にフルリモートに切り替わりました。家から出られず、パソコンと向き合う生活に、将来のことを考えるようになります。そんな中、オンラインで地域の団体と繋がれるインターシッピングプログラムを見つけます。会社の地域創生事業が、上野さんの描いていたものとは異なると感じていた時でもありました。プログラムは基本オンラインでしたが、一度訪れた福島に「いい経験になれば」と転職を決意し移住します。

引っ越しをして半年ほど経った頃、現在の拠点となる物件をインターネットで見つけます。そこから学生時代から感じていた想いが急加速していきます。「地域のサードプレイスにしたい。せつかくシンボリックな建物を見つけたので、アイデアをディスカッションできる場所、このエリアを良くする作戦会議の場所になればいいなと思います」。転職してから1年ほどで退職し、オープンに向けて活動を始めます。Uターンをしてきてから、物件を購入し、高校生・大学生そして地域住民を巻き込みながらリノベーションをし、クラフトファンディングにも挑戦します。

お店で提供する味噌キーマカレーを学ぶため長野県まで出向くなど、行動力抜群の上野さんですが、「0からだだったので、失敗してから気づくことの方が多かった」と語ります。予定よりオープンが遅くなった原因もそこにあつたそうです。あえて未完成のまま活動を続ける現在も、様々な困難を乗り越えているようです。

訪れた人の内側に小さな熱狂が生まれる場所

キッチンカーを購入し地域の祭りに出店。10

月には階上町の地域おこし協力隊も兼任することになりました。今後、個人での活動は2年目くらいを目途に法人化を目指し、規模を広げていきたいと考えています。主に空き家活用のサポートをしながら、ゲストハウス開設もやりたいことの一つとなりました。一方、協力隊としても、空き家事業・エリアリノベーションに取り組み、周辺を人が行き交う場所にしていきたいと思っているそうです。そこには上野さんらしい長期的な考え方があり、「永遠に完成しないビジョン、出てきたアイデアを組み込んでどんどん鮮明にしていく感じです。今目の前にあることに対応すること、将来の方向性と視点を切り替えて見ているそんな感じです。地域の人を大切に、声を聞きながら、明るい未来に進んでいるイメージです」と語ります。定住も見据えているそうです。

地域活動は徐々に広がりを見せ、祭りへの出店がきっかけとなった新たな出会いから、「駅前を変えていこう」と積極的に模索しています。「今28歳で、生まれてきてからいいことが1個もない世代と言われてます。震災が重なったり、バブル崩壊後の景気も絶不調で、この世代結構暗いとか言われたり。自分も生きてて感じるんですよ、そのまま大人になって子どもを産んで育てるとなったら、暗いまま進んでいくんじゃないかと。だから一人ひとりが前向きになれるような場所を、私は階上のこの場所で提供していきたいなと思っています。この場所は『訪れた人の内側に小さな熱狂が生まれる場所』をコンセプトに掲げているので、来た人が少しでも胸が熱くなる何かを見つけて帰ってもらえたら嬉しい」と話しており、その前向きな気持ちに今後の活動がとて楽しみみです。

かつて地域に愛され、地域の交流の場として生まれ変わった味噌蔵と共に、上野さんは今日もありのままのペースで歩み続けています。

(取材・佐藤 由起子)

